

大阪経済記者クラブ会員各位

「いのち輝く未来社会」実現にむけた共創カンファレンス
～「これからの社会が求める医療」をテーマに、社会課題解決への挑戦を～（10月11日開催）
取材方お願い

〔お問合せ〕大阪商工会議所 産業部（槇山・松山）
TEL: 06-6944-6484

大阪商工会議所は、『いのち輝く未来社会実現にむけた共創カンファレンス～「これからの社会が求める医療」をテーマに、社会課題解決への挑戦を～』を10月11日（水）に開催する。本カンファレンスでは、①万博開催時の来訪者増にも十分な対応が必要な『救命救急医療』、②予想される大規模災害に備える『災害医療』、③医療従事者にとっても患者にとっても負担を軽減し、Well-beingを重視する『優しい病院』をテーマに、「現状の課題と具体的な共同開発案件を提示する」セッション、「未来の課題の洗い出しと、未来の解決策を議論する」セッションを実施する。

- 参加企業は、社会課題解決策となる事業に取り組むことで、新たなビジネスチャンスを得るとともに、企業価値向上にもつなげていただくことができる。自社の社員や顧客のいのちのために必要となる情報を得ることも可能。
- 労働力不足は医療現場でも極めて深刻で、2024年度からは医師の時間外労働上限規制への対応も必要となる。一方、高齢化による患者増に加え、特に、大阪・関西においては、観光復活や万博開催により国内外から来訪者が急増し、医療事案の増加、医療現場のひっ迫が懸念される。
- 本事業は、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに掲げる2025大阪・関西万博を契機に、多様な企業が「いのちに関わる社会課題の解決」に挑戦することを促し、社会貢献と新たな事業開発を実現していただくために開催するもの。



<開催概要>

- 日時 2023年10月11日（水）13:00～17:50
- 場所 大阪商工会議所 7階 国際会議ホール
- 主催 大阪商工会議所
- 特別協力 （一社）夢洲新産業・都市創造機構（公財）都市活力研究所
国立病院機構大阪医療センターBi-AMPS
- 後援 （公社）2025日本国際博覧会協会 近畿経済産業局 大阪府 大阪市（公財）大阪観光局
- プログラム 資料1をご覧ください。

※ご取材いただける場合は、10月10日（火）までに本件担当にご連絡下さい。

「いのち輝く未来社会」実現にむけた共創カンファレンスの特長

1. いのちを守る最前線の方々が大阪に集結！

大規模イベント開催時のテロにも対応する救急医療の専門家である大西光雄医師（国立病院機構大阪医療センター 救命救急センター 診療部長）、南海トラフ地震における災害医療の研究をされる布施明医師（日本医科大学 救急医学 教授）、様々な医療従事者や患者にとっての課題洗い出しにも取り組む金村米博医師（国立病院機構大阪医療センター 臨床研究センター長）と、全国的にもそれぞれの分野における第一人者がモデレータを務める。

パネリストにも、救命救急最前線の医師や救急救命士、阪神大震災や東北地震等国内の大規模災害の際に尽力された D-MAT の医師や保健師等の方々がご参加。実体験に基づく臨場感ある議論が展開される貴重な機会。

2. 未来の課題解決に必要な製品に関連した企業が登場！

救命救急医療や災害医療の未来型の解決策に必要と思われる「空飛ぶ車」や「ドローン」、もともとは異分野であるスポーツ分野から本格的に医療参入している企業等も参加。すでに実装されている製品も展示し、具体的な検討の参考にも。

3. 万博開催を控え、注目課題に言及！

これから注目される課題として「万博で起こりうる救急医療の課題」等についての言及もあり。

4. 具体的な医療従事者と企業との共同開発提案を提示！

各分野において、いのちを守る専門家から、企業に向けて具体的な共同開発提案も行う。

- ①傷病者を搬送するロボット
- ②災害現場では働きやすい防護服
- ③外国人来訪者も利用できる情報管理が安全で救急救命士や医師が利用できる血液型・服薬情報等を携帯できる情報ツール
- ④避難時に高齢者や傷病者にも容易に装着できる熱中症予防装置 等

5. キーノートスピーチ

大阪商工会議所副会頭で社会課題に向き合う姿勢を重視する企業の代表である手代木功氏（塩野義製薬㈱代表取締役会長兼社長 CEO）が登壇。社会課題解決がいかに企業にとって必要かについて言及する。

大商は、20 年以上にわたり、創薬や医療機器開発からスポーツウエルネスまで幅広く、健康・医療分野の産業振興につとめており、2025 大阪・関西万博を機に、医療や健康にかかわる社会課題解決を企業と共に進めることに注力してまいります。

以 上

<添付資料>

資料 1：開催概要・当日プログラム

資料 2：会場レイアウト

資料 3：モデレータご略歴

「いのち輝く未来社会」 実現にむけた 共創カンファレンス

～『これからの社会が求める医療』をテーマに、
社会課題解決への挑戦を～

日 時 2023年10月11日(水) 13:00～17:50

場 所 大阪商工会議所 7階国際会議ホール

主 催 大阪商工会議所

特別協力 (一社)夢洲新産業・都市創造機構 (公財)都市活力研究所

国立病院機構大阪医療センターBi-AMPS

後 援 (公社)2025年日本国際博覧会協会 近畿経済産業局 大阪府 大阪市 (公財)大阪観光局

社会課題解決への貢献
新事業開発につながる協業探索
未来の課題を把握
企業の持続的経営・価値向上
いのちを守る地域づくり



多様な企業・組織がご参加の対象に

製造・サービス等

製造業（化学、プラスチック、金属、電機、医療、食品、飲料、繊維、家具、事務機器、生活・衛生用品、アウトドア 等）

IT・通信・情報サービス AI, ロボット, XR
建設・設備・インフラ
流通、サービス、経営支援 その他企業

- 医療従事者や、課題を持つ企業との共同開発で新事業開拓（医療機関内に加え、医療機関外の場面で利用される医療関連製品、人を守るための製品やサービスの開発等）
- 社会課題解決への貢献による企業価値向上
- 未来のリスクを知り、社員を守る持続的経営、地域貢献の実現

多くの利用者を持つ企業

大規模集客施設
イベント運営

公共交通機関、公共施設
観光・旅行・飲食 教育機関

- 現状の課題把握
- 未来社会で懸念が大きくなる課題の把握
- 先行解決事例の情報収集
- 今後の対応策の検討

医療

医師・看護師・救急救命士・医療機関

- 先行解決事例の情報収集
- 共同開発を行う企業との連携
- 未来社会で懸念が大きくなる課題の洗い出し
- 新たな解決策の社会実装に向けた課題の整理

行政

国・自治体

- 先行解決事例の情報収集
- 共同開発を行う企業との連携
- 未来社会で懸念が大きくなる課題の洗い出し
- 新たな解決策の社会実装に向けた課題の整理や支援策の検討

申込

- 参加無料
- 右記QRコードより【10月10日(火)正午】までにお申込みください
- 大商HP「セミナー・イベント(10/11)」からも申込可能

問合せ

大阪商工会議所 産業部 ライフサイエンス振興担当

06-6944-6484

bio@osaka.cci.or.jp



<開催趣旨>

あらゆる人のWell-beingがより重視される2025年、大阪は万博開催を迎えます。内外から多くの人を訪れる一方、労働力不足や大規模災害のリスク等、多様な課題への対応準備も必要です。

本カンファレンスは、「社会課題が先行して現れる医療」という場面をテーマに、多様な企業がその課題解決を担うことで、新たなビジネス開拓や、社員の安全安心を重視した経営、地域への貢献等を実現し、企業価値向上にもつなげていただくための事業です。

テーマは、観光復活や万博開催時等の来訪者増にも対応できる『救命救急医療』、いつでも起こりうる災害に備える『災害医療』、医療従事者、患者の負担を軽減する『優しい病院』。いずれも人々のWell-beingに直接関連する分野です。

各分野の最前線で尽力されている専門家や行政関係者、未来の解決策を担う企業等による「現状の課題整理」「共同開発案件提示」及び「未来の課題洗い出し」が行われる貴重な機会です。

<プログラム>

13:00~13:45
【オープニング】

これからの社会の課題解決を担う挑戦を

I. キーノート

「社会が必要とする企業であるために
～これからの社会が求める医療への貢献～（仮題）」
大阪商工会議所 副会頭 手代木 功
(塩野義製薬(株)代表取締役会長兼社長CEO)



II. 講演

「社会課題解決による企業価値の向上～レスポンシブル・ビジネスの実現～」
アクセンチュア(株)ビジネス コンサルティング本部
サステナビリティグループ日本統括 海老原 城一 氏

13:45~14:50
【救命救急医療】

I. 現状の課題解決セッション

「救命救急医療の現状と課題解決が急がれる機器開発（仮題）」
国立病院機構大阪医療センター 救命救急センター 診療部長 大西 光雄 氏

II. 未来の課題解決ブレースセッション

高齢化の加速や万博開催等を見据えたインバウンド増を背景に、
これからの社会で求められる救命救急医療のあり方について議論

<モデレーター>

国立病院機構大阪医療センター 救命救急センター 診療部長 大西 光雄 氏

<パネリスト>

国立病院機構 本部DMAT事務局 次長	若井 聡智 氏
大阪府済生会千里病院 千里救命救急センター 副部長	伊藤 裕介 氏
大阪市消防局 救急部救急課担当係長	辻野 純也 氏
株式会社ロイヤルホテル リーガロイヤルホテル大阪	
宿泊部 チーフアシスタントマネジャー	山本 健二 氏
エアーストレッチャー株式会社 常務	片田 秀樹 氏

<オブザーバー>

丸紅エアロスペース株式会社 取締役 第三営業本部長 西川 博貴 氏
株式会社Smart119 事業開発部 シニアアカウントエグゼクティブ
加藤 健一郎 氏

III. 共同開発提案

「2025年大阪・関西万博で起こり得る救命救急医療の課題と対策（仮題）」
国立病院機構本部 DMAT事務局 次長 若井 聡智 氏

<プログラム>

15 : 00~16 : 30
【災害医療】

I. 現状の課題解決セッション

「大規模広域災害時医療の現状の課題と、その解決策を担う企業への期待」

日本医科大学 救急医学 教授 布施 明 氏

II. 未来の課題解決ブレストセッション

南海トラフ地震等の大規模災害に見舞われることを想定し、その課題解決において企業が担うこと、被災側として準備しておくことについて議論

<モデレーター>

日本医科大学 救急医学 教授 布施 明 氏

<パネリスト>

気仙沼市立病院 脳神経外科科長	成田 徳雄 氏
国立病院機構 災害医療センター 救命救急科 医長	高田 浩明 氏
神戸市 健康局保健企画担当局長	山崎 初美 氏
国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所	
国立健康・栄養研究所国際栄養情報センター国際災害栄養研究室長	
	坪山 宜代 氏
株式会社大阪国際会議場 専務取締役	播本 裕典 氏
株式会社モンベル 常務取締役 広報本部長	竹山 史朗 氏

<オブザーバー>

大阪府 政策企画部危機管理室防災企画課 参事	福永 良一 氏
株式会社E・C・R 代表取締役社長	小笠原 通晴 氏
株式会社アスメディック 代表取締役	町田 佳昭 氏
入江工研株式会社 医療機器事業部製造業責任技術者兼 生産管理G長	郡司 貴雄 氏
丸紅エアロスペース株式会社 取締役 第三営業本部長	西川 博貴 氏

III. 共同開発提案

「空撮による災害急性期における災害医療需要の調査法の開発」

気仙沼市立病院 脳神経外科科長 成田 徳雄 氏

「灼熱環境下での熱中症対策」

国立病院機構 災害医療センター 救命救急科 医長 高田 浩明 氏

16 : 30~17 : 50
【優しい病院】

I. 現状の課題解決セッション

「医療従事者・患者双方の負担を軽減する病院の必要性と
急ぐ課題解決のための機器開発（仮題）」

国立病院機構大阪医療センター 臨床研究センター長 金村 米博 氏

II. 未来の課題解決ブレストセッション

医療従事者、患者双方の負担を軽減し、快適な「これからの病院」のあり方と、それを実現するための課題について議論

<モデレーター>

国立病院機構大阪医療センター 臨床研究センター長 金村 米博 氏

<パネリスト>

大阪大学 大学院医学系研究科外科学講座	
心臓血管外科学 特任助教	三隅 祐輔 氏
経済産業省 商務情報政策局商務・サービスグループ	
ヘルスケア産業課 医療・福祉機器産業室長	渡辺 信彦 氏
シップヘルスケアホールディングス株式会社 代表取締役社長	大橋 太 氏
株式会社ユカリア 取締役	西村 祥一 氏
ニプロ株式会社 検査商品開発・技術営業部課長	中野 敦行 氏
兵庫医科大学病院 病院事務部部長	小寺 斉人 氏

<オブザーバー>

株式会社エスケーエレクトロニクス ソリューション事業部部統括	三宅 充紘 氏
日本山村硝子株式会社 プラスチックカンパニーSCM本部	
ファーマキット事業グループ リーダー	岡部 泰幸 氏

III. 共同開発提案

「心臓血管外科分野の働き方改革に向けた医療ニーズ（仮題）」

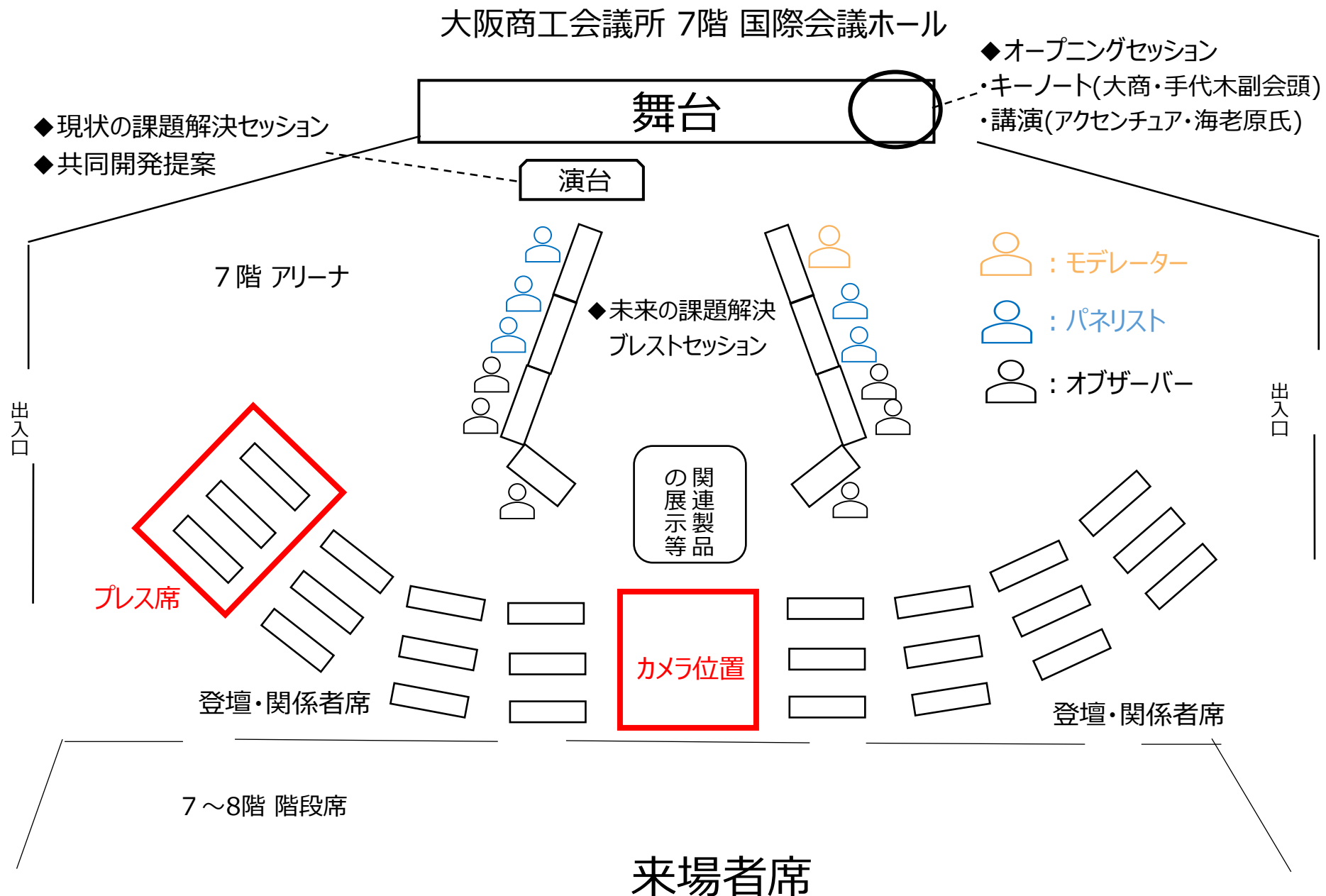
大阪大学 大学院医学系研究科外科学講座
心臓血管外科学 特任助教 三隅 祐輔 氏

「医誠会の看護改革：患者に寄り添うための業務効率化」

医療法人医誠会 経営戦略企画室 青儀 侑介 氏

会場図

舞台 : オープニングセッション
アリーナ : 現状・未来の課題解決、
共同開発提案セッション
登壇・関係者・プレス席
階段席 : 来場者席



救命救急医療

大西 光雄

国立病院機構大阪医療センター
救命救急センター 診療部長

1991年大阪大学医学部医学科卒業。1997年大阪大学大学院医学系研究科卒業。1995年から英国マンチェスター大学やダラム大学で外傷や爆傷の研究に従事。2001年から2010年国立病院機構大阪医療センター医員、2010年から2019年大阪大学大学院医学系研究科で救急医療の助教、講師に就任。2019年から国立病院機構大阪医療センター救命救急センター診療部長。世界健康安全保障イニシアティブの化学イベントワーキンググループメンバーにも就任。爆傷や熱傷をはじめとする外傷や化学テロに伴う中毒に関する全国的な第一人者。日本中毒学会評議員、クリニカル・トキシコロジスト。日本航空医療学会評議員。大阪府医師会救急・災害医療部委員。大阪府メディカルコントロール協議会委員。

災害医療

布施 明

日本医科大学 救急医学 教授

1989年宮崎医科大学医学部卒業。1996年日本医科大学大学院医学研究科救急医学修了、同大学付属病院高度救命救急センター助教。1998年パリ大学附属ビセトル病院留学。2008年日本医科大学救急医学 講師、2012年准教授、2018年より現職。内閣官房 新戦略推進専門調査会の構成員や厚生労働省 医療技術参与、海上保安庁メディカルコントロール委員会委員、国民健康保険診療報酬特別審査委員会 審査委員など、数多くの国の委員などを歴任。TVドラマの医療監修やNHK報道局ネットワーク報道部の医療情報アドバイザーとしても活躍。科研費（科学研究費助成事業）で「南海トラフ地震における災害医療対応シミュレーション・システムの開発」の研究に従事。

優しい病院

金村 米博

国立病院機構大阪医療センター
臨床研究センター長

1993年大阪大学医学部医学科卒業。2000年同大学大学院医学系研究科博士課程修了。2005年国立病院機構大阪医療センター・臨床研究部 室員。2008年同臨床研究センター再生医療研究室 室長。2018年同臨床研究センター先進医療研究開発部 部長。2023年より現職。2019年から日本医療研究開発機構（AMED）の「全医療職ニーズ/シーズ収集をワンストップで実現する次世代医療機器連携拠点」の拠点長として、医師に加えて、看護師、診療放射線技師、臨床工学技士等、様々なコメディカル部門の人材が参加する、産業界がワンストップで全病院レベルのニーズ/シーズに容易かつ効率的にアクセスできる拠点整備を推進。あわせて、少子高齢化が一層加速する本邦の次世代の医療・病院の在り方として、患者さんと医療従事者の双方に対して快適かつ「優しい病院」の方向性を議論し、その実現に向けた研究開発を推進。